

まずは、今年の1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」においてお亡くなりになられた方々に対し哀悼の意をお示しするとともに、被害に会われ、厳しい生活を送っておられる方々に改めてお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を祈念しています。

式 辞

さて、頬を伝わる風が和らぎ始め、ここ桐陽台にも春の息吹を感じ始めたこのよき日に、広島市教育長 松井勝憲 様、PTA会長 弘法 真 様とともに、広島市議会議員 若林新三 様、本校の前身である安佐北高校卒業生の広島県議会議員 山形しのぶ 様をはじめとしたご来賓の方々と、保護者の皆様にご列席いただくとともに、コロナ禍では参加を見合わせていた、3年生から5年生までの在校生も参列する中で、広島市立広島中等教育学校 第五回卒業式 を挙行できますことは、この上ない喜びであり、深く感謝申し上げます。

本日、5期生の皆さんに授与した卒業証書は、平和と希望の象徴であるヒロシマに捧げられた折り鶴を再生した紙でできており、平成28年3月の卒業式から、広島市立の学校で使用されています。この取り組みには、巣立っていく皆さんに、世界の人々の平和を願う思いを共有し、広島で学んだことに自覚と誇りを持って、次のステージで努力してほしいとの願いが込められています。

その卒業証書を手にした5期生の皆さん、卒業おめでとうございます。振り返れば、皆さんは、本校での生活の半分にあたる3年生から5年生までの3年間をコロナ禍で過ごさなければなりません。マスクの着用が義務付けられたり、自宅待機や分散登校の実施、あるいは行事や部活動への制限など、未だかつてなかったことも多く経験しました。しかし、徐々に活性化した学校行事や部活動等において、皆さんは前向きに学校生活を送り、リーダーとして後輩を優しく導いてくれました。そして本日、本校教育課程を無事修了し、こうして立派に成長した皆さんの姿を見ることが出来ることに、私たち教職員一同、大きな喜びを感じるとともに、在校生と一緒に、今日の門出を祝福したいと思います。

卒業にあたり、校歌にあるように「挑戦者（ひと）」としてまさに、次の一步を踏み出そうとしている皆さんに、私から三つほどお願いしたいことがあります。

一つ目は、「思いやりの心」を持ち続けてほしいということです。AIの進化による生活様式の激変、ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナ問題をはじめとした、混迷を極める世界情勢など、変化が激しいこの時代を生きていく上で、皆さんは不安や戸惑いを多く経験したり、更なる一步を阻まれることもあると思います。そのような時こそ、私は皆さんに、心に余裕を持ち、「思いやりの心」を持ち続けてほしいと思っています。思いやりは巡り巡って自分に返ってきます。相手を大切にし、他人（ひと）を思いやる行為は自分たちが損

をするように見えても、長いスパンで見れば必ずプラスの側面を自分たちにもたらしけてくれます。自己中心的に自分の意見を主張するだけではなく、相手を思いやり、理解し、共感することで、ともに手を携えて前に向かっていく。そんな、人と人を繋ぐ架け橋となるような存在であってください。

二つ目は、「誠実であってほしい」ということです。私が尊敬する人物の一人に、京セラ、KDDIの創業者である 稲盛和夫 氏がいます。彼はその著書の中で、人として、そして経営者として最も必要な資質に「誠実さ」を挙げておられます。その中で「誠実さ」とは、謙虚な気持ち、正直であること、私利私欲を抑制する心、人を慈しむ心、人によって態度を変えるのではなく、言葉と行動が一致しており、人を敬う心であると語っておられます。ある意味、本校の校訓の一つである「敬愛」にも通じているのではないのでしょうか。私自身も私利私欲だけで動かないようにしよう、人には出来る限り同じように接しよう、特に生徒の前では、そうありたいと思ってきました。それが自分に出来ているかどうかはわかりません。ただ、常に意識はしてきたことは事実です。皆さんには、常に自分を振り返り、「誠実さ」をもって、物事にあたってほしいと思っています。

そして三つ目は、これからも成長し続けて欲しいということです。皆さんはこれからの進路先で、今までにない自分へと変わっていくはずです。本校の校訓の一つである「克己」の精神は、生涯にわたって意識してほしい言葉だと思います。今日の自分を乗り越え、明日の自分を日々大切にし、自分自身の成長を意識し続け、いつまでも成長する人となってください。

毎日の報道で、多くの命が失われていることを耳にします。人命がとても軽く扱われ、簡単に人の命が失われているように思います。「安心安全な世界で生きたい。争いのない平和な社会で生きたい。」この思いは誰にとっても、いつの時代も変わることがないものだと思います。平和な社会、安心して暮らせる社会づくりを皆さんに是非お願いしたいと思います。たとえ今日が辛い日であったとしても、明日はきっといい日になる。夢や希望を持ち続けることができる平和な社会、そんな社会をつくる一員となって活躍してほしいと切に願っています。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございませう。入学以来、本校教育に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今日、お子様は卒業していかれますが、末長くご縁をいただきますようお願い申し上げます。これからも、保護者の皆様や卒業生の皆さん一人ひとりの人生が、幸多きことを祈念して、式辞といたします。

令和6年3月1日

広島市立広島中等教育学校
校長 横山 尚司